

事業事業評価シート

評価対象年度 平成 19 年度

【事務事業の基本的事項】

事業名	特産物販売促進対策費					
担当係名	商工課		商工物産係		作成者	阿部慶太
総合計画での 位置づけ	施策の大綱	特色ある資源を活かした産業創造のまち				総合計画の ページ
	基本計画	物産の開発と販売の促進				
	主要施策	特産品の販路拡大				70
予算費目	一般会計		7 款 商工費	1 項 商工費		2 目 商工業振興費
事業期間	平成 年度 ～ 平成 年度			新規／継続の区分		継続
性質区分	☒ 市民サービス ☐ 公共事業 ☐ 施設維持管理 ☐ 補助金 ☐ 内部管理					
根拠法令等						
事務区分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務					
運営方法	☐ 直営 ☒ 直営（一部民間委託） ☐ 民間委託(全部) ☐ 補助					

【事務事業の実施内容】

事業の対象 (誰のため・何を)	本市物産生産者
事業の目的・意図 (どういう状態にしたいのか)	本市物産の振興(販路拡大と物産開発)
事業の内容 (どのような業務、活動を行うのか)	商工会等が実施する特産品販路拡大事業等への積極的な支援や、市内物産等販売施設との連携と有効活用、「山の楽市」など県内外のイベント、物産展への積極的な出店、アンテナショップの活用、インターネットの活用等による販路拡大を図る。

【事務事業の推移】

(単位：千円)

		項目	単位	18年度実績	19年度実績	年度実績
効果	活動指標	山の楽市開催日数	日	3	3	
		ブランド調査 調査依頼件数	件		3,000	
	成果指標	山の楽市売上高	円	9,293	9,827	
		回収率	%		680	
投下コスト	項目		総事業費	18年度決算額	19年度決算額	年度決算額
	事業費（人件費を除く）(A)			764	1,126	
	財源内訳	国庫支出金				
		県支出金				
		地方債				
		その他				
		一般財源		764	1,126	
	人件費 (B)		—	1,571	1,614	
		職員数	—	0.20	0.20	
		職員平均人件費	—	7,853	8,071	
		(A) + (B) 投下コスト	—	2,335	2,740	
単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)		—	778,333	913,333	
			—		913	
	市民1人当たりのコスト(円)		—	73	87	

【事務事業の今までの成果】

商工会等が実施する特産品販路拡大事業等への積極的な支援や、市内物産等販売施設との連携と有効活用、「山の楽市」など県内外のイベント、物産展への積極的な出店等によるアンケート調査の実施等から消費者からの生の声をいただく事ができた。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	秋田県でも東京アンテナショップを設けるなど、各市町村でも新製品の開発及び販路拡大に努めている。
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	仙北市独自の販路拡大を期待する声大きい。

【一次評価】

判 定	事 業 の 方 向 性	判 定 に 至 っ た 理 由
A	A 現状のまま継続（実施）	本市物産の振興には、現状把握が不可欠であり多面的に現状を調査し、今後の施策に活かす必要があると考えA判定とした。
	B 見直しの上で継続（実施）	
	C 大幅な見直しの上で継続（実施）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	

※一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

【二次評価】

判 定	判 定 に 至 っ た 理 由
A	特産品の販路拡大について、アンテナショップの活用などを図るためにも引き続き事業の実施が必要と考える。

一次評価診断図

